



金ヶ崎町立金ヶ崎中学校

学区の概要

○位置及び地勢

金ヶ崎町は、南は奥州市水沢区と胆沢区、東は北上川を挟んで江刺区、北西は北上市に接し、奥羽山脈から東麓になだらかな山林部とやや平坦な水田地帯からなる扇状台地である。

面積は179.61平方kmで東西に長く広がり最長21.78km（南北最長14.44km）にも及び。夏冬の寒暖の差が激しく、特に冬季に奥羽山脈から吹き降ろす寒風に乗った降雪などの気象状況は、東部平坦地と西部山間部とでは異なる様相を呈する。

○人口

町村合併以降、漸減傾向にあったが、昭和50年代、金ヶ崎中部工業団地に企業が誘致されるようになると、人口が少しずつ増加した。その後、企業誘致の拡大に伴い、かなりの人口増加が見られたが昭和60年代になるとそれも止まり安定的に推移している。

○産業

中部平坦地は米作が基幹であり、近年アスパラガス等の野菜作りも盛んになっている。西部山麓地帯は広大な草地造成により酪農肥育牛の飼育が盛んである。

また、金ヶ崎中部工業団地への大企業の誘致も進められ、トヨタ自動車、塩野義製薬、デンソーをはじめ現在数十社が操業している。

○教育・文化

時代の即応した「新しい町づくり」は「人づくり」からという、町を上げての教育の重要性を認識し、生涯教育、家庭教育などの堅実な施策が活発に展開されている。昭和56年には、県南青少年の家が舘山に建設され、青少年の健全育成の場として重要な役割を果たしている。また、平成5年には本校に隣接して森山運動公園が建設され、スポーツ振興に大きな役割を果たしている。

さらに城内・諏訪小路伝統的建造物群や六原軍馬記念館などの歴史的遺産も町内に数多く点在している。

○通学環境

一町一中学校であり、地理的には町の東側よりに位置しているため、生徒の約三分の一は六路線のスクールバスを利用している。